

【国文学研究資料館 編 原典講読セミナー】

国文学研究資料館編／上野洋三著

近世宮廷の和歌訓練

—『万治御点』を読む—

[原典講読セミナー 1]

■ 四六判・並製・232頁

本体2,400円＋税

これまで研究が進められていなかった江戸時代の和歌をテーマにした講義を収録。万治2年(1659)から寛文2年(1662)にかけて後水尾院が廷臣の詠歌を直接に添削した記録『万治御点』を読む。古今伝受を相伝することを目的としたこの点取によって、江戸時代の宮廷社会が和歌の存在意義の基盤となったことを明らかにする。

ISBN978-4-653-03587-9 [99/6]

国文学研究資料館編／浅田 徹著

百首歌

—祈りと象徴—

[原典講読セミナー 3]

■ 四六判・並製・214頁

本体2,400円＋税

中世和歌の主流であった題詠(歌題を与えられて詠むこと)による三作品、源国信「懷旧百首」、慈円「早卒露膽百首」、京極為兼「塵百首」を鑑賞。百首歌の規範として最重要の古典『堀川百首』題を襲用して詠まれたこれらの作品を通して、百首歌の表現の特性を考える。更に、作者たちが百の歌を通して何をなそうとしたのかを読み取る。

ISBN978-4-653-03589-3 [99/7]

国文学研究資料館編／安藤正人著

江戸時代の漁場争い

—松江藩郡奉行所文書から—

[原典講読セミナー 4]

■ 四六判・並製・208頁

本体2,200円＋税

島根県立図書館蔵の「松江藩郡奉行所文書」は、江戸時代後期に松江藩郡奉行所が扱った民事訴訟関係の文書で、事件ごとに「一件袋」と呼ばれる袋にまとめた、全国的にも貴重な形態を残している。この中から「藻刈争論一件」「二股大敷網場争論」という二つの事件に関する文書を読み、当時の庶民生活や裁判組織について明らかにする。

ISBN978-4-653-03637-1 [99/8]

国文学研究資料館編／田淵句美子著

阿仏尼とその時代

—『うたたね』が語る中世—

[原典講読セミナー 6]

■ 四六判・並製・256頁

本体2,500円＋税

『十六夜日記』で知られる鎌倉中期の歌人、阿仏尼の日記文学『うたたね』を読み解く。表現の特徴や影響、当時の文化や時代背景をもとにした作品の位置付け、中世女性文化の担い手としての新しい阿仏尼像などについて解説。作品と著者阿仏尼についての検討を通して、その背後にある中世の文化を明らかにしていく。

ISBN978-4-653-03723-1 [00/8]

国文学研究資料館編／伊藤鉄也著

源氏物語の異本を読む

—「鈴虫」の場合—

[原典講読セミナー 7]

■ 四六判・並製・240頁

本体2,400円＋税

二千円札の図柄にもなった「鈴虫」巻を題材にその詞書を読み、一般に知られた本文と異本との比較検討を通して、本文研究の現状と課題、異本研究の必要性を説く。未紹介資料「国冬本」の長大な異文を吟味、異本30種の対校資料を付し、『源氏物語』の本文研究に新たな光をあてる講義録。

ISBN978-4-653-03724-8 [01/7]

国文学研究資料館編／小川剛生著

南北朝の宮廷誌

—二条良基の仮名日記—

[原典講読セミナー 9]

■ 四六判・並製・240頁

本体2,400円＋税

連歌などで知られる二条良基の仮名日記は、南北朝による都の占領、興福寺の嗟訴、將軍義満との関係など、当時の政治・文化を映した重要な史料でもある。壮年から晩年の三作品『小島のすさみ』『さかき葉の日記』『雲井の御法』を取り上げ、廷臣による仮名日記を単なる記録でも物語でもない「宮廷誌」として位置づけその魅力に光をあてる。

ISBN978-4-653-03726-2 [03/1]

国文学研究資料館編／丑木幸男著

近代政党政治家と地域社会

〔原典講読セミナー 10〕

■ 四六判・並製・228頁

本体2,400円＋税

デモクラシーの時代に生きた地方政治家が求めた理想の政治と社会の姿とは。明治から昭和にかけて群馬県から衆議院議員に四度当選、地域振興の発展にも尽力した高津仲次郎（立憲自由党・政友会所属）が残した日記と高津宛の書簡から、近代政治家の活動、地域社会との関わりを追い、その実態を明らかにする。

ISBN978-4-653-03727-9 〔03/7〕

